

# 地震対策オペレーション2025（大規模図上訓練）実施結果

（危機対策課）

## 1 要旨

本年度に実施した全職員参集訓練や総合防災訓練等、年間訓練の集大成として、大規模地震が突然発生したとの想定の下、県・市町・警察・消防・自衛隊等の関係機関、約7,000人が参加して、大規模図上訓練を実施した。

本訓練は、平成13（2002）年度から阪神・淡路大震災が発生した1月17日前後に実施しており、令和2～3年度の新型コロナウイルス感染拡大及び令和6年能登半島地震による中止を挟み、今回で21回目。

## 2 概要

日 時	令和7年1月17日(金)午前8時30分から正午まで
場 所	県庁別館5階危機管理センター、別館9階第1特別会議室等
参加機関	県、市町、警察本部、消防本部、自衛隊、海上保安庁、国、ライフライン関係機関等（約30団体、約7,000人）
想 定	南海トラフ地震の発生から1日（24時間）経過後
訓練内容	<ol style="list-style-type: none"><li>本部、方面本部及び市町等の連携強化<ul style="list-style-type: none"><li>・広域的な災害応急対策活動を円滑に実施するため、本部及び方面本部等の連携による情報集約・共有、活動調整及び必要な要請に係る手順確認</li></ul></li><li>「南海トラフ地震における静岡県広域受援計画」の点検<ul style="list-style-type: none"><li>・広域受援計画を踏まえ、人命救助を第一とし、緊急輸送、医療活動、物資調達等の分野における、国からの応援の受入、市町への配分手順の確認</li></ul></li><li>能登半島地震における教訓への対応<ul style="list-style-type: none"><li>・令和6年能登半島地震において、道路が寸断され集落の孤立が多数発生したことを受けた、空路・海路を活用した救出救助及び道路啓開の調整、ドローンを活用した被害状況等に係る情報収集・対策の検討等</li></ul></li></ol>

## 3 成果

本部員会議に先立ち、各機関による災害応急対策の実施状況を共有する場を設けたことで、以降の活動を円滑に実施するための調整をすることができた。市町支援機動班がドローンによる航空偵察で収集した映像を本部員会議等に提示したことで、各機関が現地の被害状況に対して統一認識を持ち、以降の災害応急対策の検討に活用することができた。

#### 4 訓練風景

##### 本部員会議



##### 災害応急対策の実施状況を共有



##### 災害対策本部における災害応急対策

